



Living My Dream Life

in ふじのくに

40年来の夢が 静岡で叶いました。



ふじのくに地球環境史ミュージアム
准教授

きしもと としお
岸本 年郎さん

1971年大阪市生まれ。東京農業大学大学院博士後期課程修了。博士(農学)。ふじのくに地球環境史ミュージアムに準備段階から参画。外来生物対策に詳しく、近年は毒を持つヒアリの調査や報道でマスコミに登場することも多い。ふじのくに地球環境史ミュージアムが掲げる「百年後の静岡が豊かであるために」というキャッチフレーズは岸本さんが考案。静岡市在住。



写真提供:環境省

ヒアリ問題については、10年以上前から環境省とともに取り組んできた。

「静岡は、研究者としても、生活者としても楽しい場所です」と語る岸本 年郎さんは、平成28年にオープンした「ふじのくに地球環境史ミュージアム」の准教授だ。

大阪で生まれ育った岸本さんは、小学生の時に地元博物館の研究者に憧れ、卒業文集での夢は、学芸員になることと書いた。大学からは、主にハネカクシ科甲虫を対象に昆虫分類学を学び、その後、一般財団法人自然環境研究センター(東京)で環境省の関連事業に従事。全国を飛び回りながら生物多様性保全に関わる調査研究を行い、外来生物対策やニホンジカの食害問題などにも向き合ってきた。

「ハネカクシは、世界で5万8000種が知られていますが、まだたくさんの新種も残されています。地域が違えば種も違い、1本の川が分布境界になっていることもあります。各地に豊かな自然環境がある静岡は、理想的な研究のフィールドです。しかも静岡は、食材が豊富で地酒もおいしい。居酒屋のメニューにも生物多様性を感じます。ただ、同時に深刻な環境リスクを抱える現実もあり、ミュージアムを通じて、多くの人に考える機会を提供していきたいと思っています」と岸本さんは力を込める。

博物館の研究員になる夢を実現させた岸本さんは、移り住んだ静岡で日々充実した暮らしを送っている。



小笠原諸島の鴛島で調査を行う岸本さん。「昆虫の研究を通じて生物多様性保全に尽くしていきたい」と語る。

取材協力:ふじのくに地球環境史ミュージアム
<https://www.fujimu100.jp/>